

滋賀県前立腺がん地域連携パス 「内分泌療法」 患者様用

現在、あなたの前立腺がんは内分泌療法によってうまくコントロールができています。
 今後は内分泌療法を「かかりつけ医」と連携して継続していきます。

診断がついた時のPSA値：()ng/ml 組織診断：前立腺がん 転移の有無：□なし・□あり() 前治療内容：□なし □前立腺全摘除術 □放射線療法	内分泌療法開始日： 20 年 月 日 内分泌療法開始時PSA値：()ng/ml 注射：□()最終 次回予定 内服：□() その他：□()
--	--

PSA 0.2ng/ml 未満に達した日	20 年 月 日
「かかりつけ医」との連携直前PSA値	()ng/ml
「かかりつけ医」との連携開始日	20 年 月 日

受診時 (開始後)		(年)
かかりつけ医	PSA値が低下し、0.2未満になって6ヶ月以上安定している患者様が対象になります。 「かかりつけ医」で注射と内服、あるいは注射のみの治療、PSA値の測定を継続していただきます。PSA値が安定している場合、それ以上の定期的な検査は必要ありません。 内分泌療法を続けていくと、一旦低下したPSA値が、徐々に上昇してくる患者様がいらっしゃいます。これを「再燃」と呼びます。2以上に上昇するようであれば、治療法の変更(内服薬の変更等)が必要になりますので、内分泌治療施行病院に受診していただきます。	
	9	
	10	
	11	
	12	
内分泌	PSA値が2以上、あるいは何か気になる症状が出現した場合には、内分泌治療施行病院を受診していただきます。順調に経過している患者様でも、年1回は内分泌治療施行病院を受診していただきます。 内分泌療法は男性ホルモンを抑える治療です。体内のホルモンバランスは女性ホルモンが優位になるため、乳房が張ってくる(女性化乳房)、顔のほてりや急に多量の汗をかいたといった女性の更年期障害の症状、性欲が低下して勃起しなくなる、といった副作用が認められます。 内服薬の副作用として、急激に肝機能が悪化する場合があります。PSA値採血時には肝機能もチェックいたします。 その他、副作用にはさまざまなものがありますので、気になる症状がある場合は備考欄に記載してください。	
内分泌		

PSA値の上昇や気になる症状が出現した時には、()病院 泌尿器科 担当医()
 にご紹介いただき、治療法の変更を行います。順調でも1年毎に内分泌治療施行病院を受診していただきます。

滋賀県前立腺がん地域連携パス 「内分泌療法」 患者様用

現在、あなたの前立腺がんは内分泌療法によってうまくコントロールができています。
 今後は内分泌療法を「かかりつけ医」と連携して継続していきます。

診断がついた時のPSA値：()ng/ml	内分泌療法開始日： 20 年 月 日
組織診断：前立腺がん	内分泌療法開始時PSA値：()ng/ml
転移の有無：□なし・□あり()	注射：□()最終 次回予定
前治療内容：□なし □前立腺全摘除術 □放射線療法	内服：□() その他：□()

PSA 0.2ng/ml 未満に達した日	20 年 月 日
「かかりつけ医」との連携直前PSA ()ng/ml	
「かかりつけ医」との連携開始日	20 年 月 日

受診時期 (開始後月数)	年	月	日	PSA値 (ng/ml)	注射	内服	備考欄(自覚症状・医師からの説明等)
かかりつけ医	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
内分泌治療施行病院を1年後に受診 (年 月 日)							
かかりつけ医	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
内分泌治療施行病院を2年後に受診 (年 月 日)							

PSA値の上昇や気になる症状が出現した時には、()病院 泌尿器科 担当医()
 にご紹介いただき、治療法の変更を行います。順調でも1年毎に内分泌治療施行病院を受診していただきます。